

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立福岡小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-8063

豊橋市橋良町字平野1番地の1

E-mail fukuoka-e@toyohashi.ed.jp

Website http://www.fukuoka-e.toyohashi.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 332名 女子 298名 合計 630名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校では、地域の特色ある施設や校区に在住する人材、そして地域性の高いさまざまな行事を授業に取り入れることにより、地域に関わり、地域に愛着をもつ子の育成を旨とした教育活動を実践してきた。

とりわけ総合的な学習や生活科では人・もの・自然と積極的に関わりをもつことで、地域に学び、関わりを深める子どもを旨してきた。校区の自慢できる場所の発見とその紹介、校区在住の人材から魅力的な生き方を学ぶ、また、校区のためにボランティアを続ける方の思いなど広く学ぶことができた。

具体的には、地域を題材とした各学年の学習を柱に、①老人クラブや地域各種団体との交流、②校区住民とキャリア交流との連携、③ありがとう集会で感謝の気持ちを伝える学習を行った。

① 老人クラブや地域各種団体との交流

地域の各種団体の方々の協力を得て、1・2年合同で七夕集会を行った。この集会は、福岡校区保護司会の社会を明るくする運動の一環として毎年実施し、今年で38回目を迎えた。毎年、温かい雰囲気の中で、盛大に行うことができ、世代を超えた交流を図ることができている。

また、1年生は、生活科「昔の遊びに挑戦」の学習で、日本に伝わる昔の遊びについて、学校図書館司書のブックトークを聞いたり、校区老人会の皆さんに直接教えてもらったりしながら、お手玉やこま回し、竹とんぼ、めんこ、あやとりなどの遊び方やコツを学んだ。お年寄りとのふれ合いや昔ながらの文化に触れることで、地域に対する愛着を深めることができた。

② 校区住民とのキャリア交流

毎年、バケツを使った米作りを行っている。校区に住む農家の方を講師として招き、田植えの時期には、土づくりや苗の植え方、稲の世話の仕方について学んだ。

実際に話を聞くなかで、現在の米作りにおける問題点についても学びを深めた。さらに、日本の主食である米への愛着を深め、農家の方の苦労や努力、昔の人の知恵のすばらしさを学ぶことができた。

また、6年生ではドリームマップを作成している。それにあたって、おやじの会の方を講師に招き、職業だけでなく、生き方について学ぶ場を設定した。子どもたちは講師の熱い思いにふれ、働く意味を見つめ直した。

③ ありがとう集会で感謝の気持ちを伝える学習

2月をありがとう月間と定め、1年間お世話になった方々に感謝する取り組みを学級活動や委員会活動のなかで行っている。また、全校で「ありがとう集会」を開催し、お世話になった人へ手紙やメッセージを贈っている。

子どもたちは、1年間の学校生活を振り返り、お世話になった人へ感謝の気持ちを表現することを通して、地域の方々や上級生、友達に支えられていることに気づくことができた。また、感謝の気持ちを伝え合うことを通して、地域の方々や友達との心の絆を深めることにもつながった。



① 1、2年 七夕集会



② 1年 昔遊びの会



③ おやじの会「生き方を学ぶ会」



④ ありがとう集会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(地域)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

E S D カレンダー (ウェブサイト)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

これまでの各学年の教育課程を見直し、学年間の連携および継続を意図的・計画的に図ることとした。学年間の生活科・総合的な学習の時間の内容を段階的にステップアップできるように整理し、学年内において各教科や道徳との関連を意識した実践を進めていく。このことから、6年間、そして中学校への引き継ぎにより継続的な実践を行うことで、将来にわたって地域のよさを知り、地域に住む自分といった意識を高めていくことができ、地域が大好きな子どもを育てていけると考えている。

地域に関わる教科・領域の授業について、単元構想を立てるとともに、そこに関わる教材の開発および整理・保存を行うことで、地域資源の継続的な有効利用を目ざす。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

指導内容を各学年の生活科や総合的な学習の時間に位置づけたり、道徳等の授業との関連を図ったりするなどの取り組みを行ってきた。この中で、各学年の発達段階に即した単元を構成し、題材としても自治会の主催する行事など、地域の活動を取り入れた。このことから、近年、「地域に密接した学校」という意識がより強くなってきた。この取り組みを持続発展させ、地域に根づいた文化の継続、伝承、地域の環境保全を図っていくことも目的としている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

生活科や総合的な学習と各教科などを関連づけて横断的につなぐカリキュラムを考えた。そして、どんな題材や教材を使って、体験や言語活動をするのかを明らかにしてきた。発問を引き出し、対話を進め、協働する場面を意図的に作る事ができた。

課題として地域の人材や行事について、データを整理して残すことが大切になってくる。次年度の教職員集団がスムーズに取り組めるようにする。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

地域の学習をすることで、自分たちの暮らす校区の良さを再発見することができた。また、地域の方を招待したり、校区を探検したりすることで、地域の方と顔見知りになることができ、校外でも声をかけ合うことのできる子どもも増えた。校区の良さというのは、場所だけでなく、住んでいる人々の温かさや優しさがとても大切だという思いを手紙や新聞づくりなどで発信することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校は愛知大学と隣接している。教職インターンシップ(教職体験研修)を継続的に行い、毎年10名以上の学生がボランティア活動をしている。その中で授業の支援だけでなく、学んでいることの内容や将来の生き方についても紹介していただき、ESD教育の一端を担っている。また、愛知大学の臨床心理実習生や愛知教育大学学校サポート活動における学生の受け入れをしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度、ユネスコスクール豊橋大会が開催され、本校の教職員が南部中学校や栄小学校へ参加した。また、大会2日目には愛知大学で、シンポジウムやポスターセッション、テーマ別分科会にも参加した。今後も近隣の小中学校と連携を取り、地域とともに創るESD活動の推進を図る。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域や社会に対する関心を高めるために、平和・公正さ・命の尊厳・多文化共生・有限性・自然界の循環などの価値観を共有するよう日々の教育活動を充実させている。例えば、「生き方を学ぶ会」で働く意味を見つめ直す機会を設定するなど地域のボランティア、地域の自然、地域のものを発見し、大切に思い、「ぼくたち・私たちもこうなりたい、こうしたい」という思いを育て、将来への責任感を育てていく。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

① 地域を題材とした各学年の単元の構想

地域に関わる教科・領域の授業について、単元構想を立てるとともに、そこに関わる教材の開発および整理・保存を行うことで、地域資源の継続的な有効利用を目指す。

② 地域連携を密にする活動および組織の構築

地域を巻き込んで実施することで、地域の中の学校といった意識の向上を図る。また、地域ボランティアの学校参加、児童の地域ボランティア活動を通して、それぞれの地域に対する愛情を高める。

③ 地域に伝わる文化にふれる活動・地域が主催する行事への参加

地域の祭礼や近隣の豊橋豊学校の行事などの実施状況を調べ、その存在を校内で交流し、共通理解を図る。そして、その積極的な参加を目指して、窓口紹介や役割分担の可能性について教育活動の中で検討を実施し、地域のさらなる関わりや地域の一員としての意識を高めていく。